



# 週報

Weekly Report

RI テーマ  
**奉仕を通じて平和を**

2012-2013 年度  
国際ロータリー会長 田中作次

国際ロータリー第 2720 地区 **熊本南ロータリークラブ**  
Rotary International District 2720 Kumamoto South Rotary Club



1905年2月23日、最初のロータリークラブ結成。一番右がポール・ハリス。(卓話より)

例会日 / 毎週月曜日 12:30 ~ 13:30  
 例会場 / 〒860-8536 熊本市中央区上通町 2-1 ホテル日航熊本内  
 創立日 / 昭和 33 年 9 月 1 日 (承認 昭和 33 年 11 月 24 日)  
 会長 / 浅山弘康 幹事 / 漆島典和 クラブ広報委員長 / 吉原コウイチ  
[www.kumamoto-southrc.org](http://www.kumamoto-southrc.org)

## 第25回例会記録(通算第 2553 回)

平成 25 (2013) 年 2 月 4 日

斉唱 国歌 君が代

ロータリーソング「それでこそロータリー」

### 来訪者紹介

八代東 RC 山田晃久様

### 会長報告 (浅山弘康君)

今日の会長報告は昨年 12/16 総選挙が行われましたがその中で、放送で当選確実＝当確がNHK、民放で随時打たれていきます。どんな根拠で、どのタイミングで打たれるのかとの質問を受けました。折角の機会でございますのでRKKの場合のどの様な根拠、どのタイミングで打たれるのかの説明をさせていただきます。

基本的に、新聞社、放送局は各社、各局、独自の判断、責任において当確を打っています。RKKの場合は、

- 1、担当記者の事前の取材や意見
- 2、事前調査(調査会社による)
- 3、投票が済んだ方々の出口調査
- 4、開票の得票数の経過

などを考慮し、最終的に当確を打っております。また、タイミングとしては開票した時点(20時)以降・・・RKKとしては投票箱をひっくり返した時点以降に当確を打つこととしております。なお、小選挙区は地元局、比例はキー局が当確を打つこととしております。最後に当確を早く打つことがいいのかどうかは議論を要するところですが、現実に報道の現場からしますと他局よりも1秒でも正確に、早くというのが当事者としての意欲の現われであることも事実です。

以上、総選挙の場合の当確に関する説明をさせていただきました。

### 幹事報告 (漆島典和君)

1. 岡村ガバナーより  
2014～2015年度ガバナー・ノミネー決定のお知らせ  
ガバナー・ノミネー 小山康直様 (大分臨海RC)
2. 地区大会の登録申込の回覧
3. 玉名中央RC創立30周年記念式典の登録申込の回覧

### 今日の例会

1. 今日の歌
2. 来訪者紹介
3. 会長・幹事・各委員会報告
4. 外部卓話 吉村郁也様  
(株式会社グローバル・ビジョン代表取締役)

### 今月・来月の行事

- 2/25 外部卓話 薄井良文様  
(阿蘇広域消防本部)

### 出席報告 (現王園敏伸君)

会員数	出席数	出席率	前々回 修正出席率
62名	42名	70.00%	64.41%
出席規定適用免除者 8名			欠席記録免除者 0名
名誉会員 0名(会員数には含まれません)			

### 例会変更のお知らせ

〇りんどう RC～夜例会の為時間変更

[変更前] 2月28日(木) 12:30～

[変更後] 2月28日(木) 19:00～

[場 所] エミナース

※2月下旬までサインメーキャップが少ないのでご注意ください。

●2013～2014年度地区委員委嘱状の授与

(野口泰則会長エレクト)



◇ガバナー諮問委員会委員  
寿崎 肇 君



◇新世代奉仕部門部門長  
堀川貴史 君



◇会員増強・拡大委員会委員  
坂本研一 君

◇財団資金管理委員会委員  
星野誠之 君

◇補助金委員会・グローバル補助  
金チーム委員

国際奉仕委員会委員  
三角雄介 君

◇クラブ戦略計画委員会副委員長  
田邊信一 君

●社会奉仕委員会(赤澤剛君)

2/17(日)熊本城マラソンのご案内



熊本南 RC はグリーンの  
ジャンパーを目印に!

●新世代奉仕委員会(堀川貴史君)

2/9～10全国ローターアクト研修会のご案内

●スマイルボックス(坂本研一君)

○浅山弘康君・漆島典和君・古財良一君

当クラブへの来訪者山田晃久様を歓迎いたします。

本日の卓話者、寿崎パストガバナーに心から感謝します。

○玉田光識君・渡邊秀章君

本日の卓話者、寿崎パストガバナーに心から感謝し、大先輩のお話を楽しみにしています。

○寿崎肇君

本日は卓話をさせていただきます。先輩方々はまたおなじことを。ですが、お許しを頂いてロータリーの確認とお考え下さい。ロータリーに籍を置くことが人生の幸福と事業の成功と手続要覧にあります。30分我慢していただきたいと思えます。ありがとうございます。

○高宮 宏君 V

誕生日ありがとうございます。今年は平均より寒いようですが元気に現役で頑張っています!

○田川憲生君

2月4日付「日本経済新聞」最終面「交渉」で総務副大臣、坂本哲志氏執筆しています。「かなわない人」のタイトルで私の事が書いてあります。私事で申し訳ありませんがご一読下さい。

○永井富士雄君

先々週より出張続きで先週の例会や皆様からの案内イベントへの参加が出来ませんでした。藤見会員の卓話を聞くことが出来ず残念でした。お詫びのスマイルです。

委員会報告

●親睦活動委員会(田川憲生君)

[結婚祝]

[誕生日祝]

塚本 侃君	2.7	野田三郎君	2.1
赤澤 剛君	2.10	山本 円君	2.1
星野誠之君	2.10	杉田辰彦君	2.9
川越 武君	2.27	高宮 宏君	2.10
堀川貴史君	1. 23	渡邊秀章君	2.13
瀬尾広夫君	1. 25	木村弘訓君	2.14
		豊増千鶴男君	2.17
		塚本 侃君	2.17
		藤井宏樹君	2.20

[結婚祝い]



[誕生日祝]



会員卓話(玉田光識君)

「ポールハリス追悼記念週間とロータリー理解推進月間について」 寿崎肇パストガバナー



RI は年間行事として国際大会の日から地区協議会の日まで 19項目決めております。年が改まって1月はポールハリスの亡くなられた月であり、2月はロータリー創立の月です。RI は1月27日を含む1

週間をポールハリス追悼記念週間と定め、1月をロータリー理解推進月間と決めております。ロータリー誕生を考えますと、精神的に落ち着いた都市で生まれたのか、又その逆の都市で生まれたのか。とおっしゃる方がいます。喧騒のシカ

ゴで生まれました。ロータリー創立の50年前、このシカゴで市民の正義を求めたすざましい戦いがおこなわれました。逆説的なシカゴこそ最もふさわしい都市ではなかったか。とポールハリス伝の著者は言うております。そしてポールハリスこそまさにその人でした。とも言うております。ロータリーの誕生した前後のシカゴでは移民による人口の爆発的増加。また、とどまるどころを知らない工業の発展。そして、ひどい労働不安などです。しかし希望のもてる明るい傾向でもありました。ロータリー誕生の13年前にシカゴ大学開校。最初のロータリークラブが結成された4年後には現代建築の巨匠の多くがシカゴから世に出ました。新しい大学の近くに世界最初の摩天楼が下町に建ちました。慰安でもシカゴは摩天楼の町として建築の見学ツアーが多いとのこと。

ポールハリスが父親のドラッグストア経営の失敗で祖父母の町、バーモント州・ニューイングランドの祖父の農場で過ごした少年期のことがロータリー創立への理解を得やすいように思われます。ポールハリスは1868年4月19日米国ウイコンシン州ラシーンで生まれました。ポールが3才、兄のセシルが5才の時、父の事業の失敗で父方の祖父母と一緒に暮らすこととなります。実の母と一緒にではありません。遠慮もあったと思います。小中高校と祖父母と一緒にです。自叙伝では「私は過不足なく全てにバランスがとれていて、最高の理想を挙げると共に、教育を至上の目的とする。きちんとして永続性をもった家庭の恩恵を受けました」と。教育への願望が強く。若いポールハリスはバーモント大学とプリンストン大学で学び、1890年アイオワ大学を卒業し、法学の学位を取得しました。卒業して先輩に5年間位世界を見聞きするように勧められ、その通り世界を見ました。ポールハリスの表現では「5年間の放浪中」米国とヨーロッパ各地を幅広く旅行しました。生活のため、各地ではロコミや募集広告により新聞記者、専門学校の教諭、果物摘み、カウボーイ、事務員、セールスマン、英国行き家畜船の甲板員などさまざまな仕事をして生計をたてました。友達も多くでき、ポールハリスは1896年放浪を終え、シカゴに定住し、弁護士を開業しました。シカゴの生活は淋しかったようです。シカゴでの実業人のクラブをつくる構想を発展させ1905年2月23日3人の友達シルベスター・シール、ガスターバス・ローア、ハイラルショーレーと会い最初のロータリークラブを結成しました。ポールハリスは結成当初より米国と海外の両方でロータリーの拡大のためにたゆみなく尽力しました。国際ロータリーの前身である全米ロータリークラブ連合会が1910年に最初の大会を開いたときポールは会長に選ばれました。ポールは2期続けて会長を務め、1912年大会で名誉会長の称号を贈られました。名誉会長の称号を受けた唯一のロータリアンがポールハリスです。

1910年ポールはシカゴ・プレアリークラブと共にハイキングに出かけ、その日に未来の妻、ジーン・トムソンと出会いました。このクラブは熱心なアウトドア派のグループでポールがその結成に助力しました。ポールとジーンはその年の7月に結婚し、2年後ポールは最初の出会いの森を見渡せる場所に家を建てました。ポールはジーンが子供時代を過ごしたスコットランドのエジンバラの地にちなみ、その家をカムリーバンクと呼びました。その家でポールとジーンは数えきれない程多くのロータリアンをもてなしました。その後ハリス夫妻は

世界中を旅行し、ロータリーを推進しました。ロータリーが世界理解と平和に献身しているしるしに、ハリス夫妻はほとんどあらゆる大陸に友情の木を植えました。ポールは1947年1月27日カムリーバンクで亡くなりました。お墓は長い間友であったシルベスター・シールの墓の方側にありました。ジーンはやがて生まれ故郷に戻り、1963年に亡くなりました。このお墓にもロンドン国際大会の折にお参りしてきました。ポールは著書の中でロータリーを思いついた基盤として祖父の隣人から学んだ価値観をあげています。「ロータリーは私の少年時代のニューイングランドの人々の特性であった寛容と善意と奉仕の精神から生まれたのであり、私はその精神のうちじぶんの中にあるものを全て自分なりに他の人々に与えようとしてきました。」

大学の時祖母の葬儀の知らせを待ったり、少年時代の色々な情景や出来事を思い出したりしながら悲しい気持ちで大学の勉強を続けていると私は同じ年齢の者ならほとんどかからないようなホームシックにかかってしまったのです。あの谷間の静かなきちんとした家や祖父母の愛情のこもった心遣いが懐かしくてたまらずバーモントの山々を夢に見たほどです。それで後になって西部の山々を目の当たりにした時には涙が出てきて止まりませんでした。ポールハリスと言う人は我々日本人と同じ感情を持った人なのかと思いました。1年前アイオワ大学への途中、シカゴで1週間滞在したのですが、この雑踏を極めた西部の都市の落ち着きのなさ、邪悪さが怪しい魅力をもってこの私をとらえたのです。私の育った谷間とは全く違っていました。しかし私はこの町に何か活力といったものを感じ取ったのです。そこには人々との生き方を学べる所でした。この考えがロータリー本部の入口にある「入りて学び出でて奉仕」なのかと思いました。

「四つのテスト」について申し上げます。職業奉仕という言葉はロータリーの専門用語であり一般には使わない奇妙な言葉と言われる言葉です。この言葉がロータリーの世界に現れたのは1927年ベルギーのオステンドで開かれた国際大会の時からです。RI 理事会の提唱は奉仕の実践分野を4つに分け、クラブ奉仕、職業奉仕、社会奉仕、国際奉仕と呼ぶようになりました。職業奉仕と社会奉仕が私もよく分からない時、先輩が散髪屋さんが年寄に無料奉仕で散髪をしてあげるのが社会奉仕で、お金を頂いて満足して頂くのを職業奉仕だ。と職業を通して社会奉仕。つまり奉仕とは相手を喜ばし続けることだと思います。古典的なロータリーのバイブルとも言われている決議23-24号の第一項にそれを簡潔にまとめた条文があります。「ロータリーは基本的には一つの人生哲学であり、それは利便的な欲求と義務及びこれに伴う他人の為に奉仕したいという感情との間に常に存在する矛盾を和らげようとするものである。この哲学は奉仕―「超我の奉仕」の哲学であり、最も良く奉仕する者、最も多く報いられる。という実践的な倫理原則に基づくものである」そして第二項に「まず、第一に奉仕の倫理が職業及び人生における成功と幸福の基盤であることを団体(ロータリー)で学べ」と第一項を守ることが第二項実践で成功させることだと思います。このような人、ロータリアンが毎週例会で出会い、夫々の生活経験から来る考え、発想を交換し、人間関係尊重、人間関係改善を重ねていくなら素晴らしい人間が約束されます。他人



の幸せを自分の幸せのように考えられる人こそロータリーの教えを実践している成功者だと思います。「四つのテスト」の発案者はハーバード・テラー(ロータリー創立50周年に当たる1954-55年度 RI 会長)は若いころに第一次世界大戦と1930年代の世界的大恐慌を経験しました。1914年第一次世界大戦が始まり、1917年米国が参戦、彼は米海軍予備隊に入隊、大尉に仕官、その時の上官モーリス・カーカー氏で後のシカゴでジュエル・ティ会社の社長になりハーバードをオフィスマネージャーに招きます。ハーバードの昇進は目覚ましく1929年には社長カーカー氏の次の位、取締役副社長になります。そのような折も折、シカゴのコンチネンタルナショナル銀行の副社長からカーカー社長にハーバードの時間の半分を割いてクラブアルミニウム製品会社が倒産しないよう手を貸してほしい。というものでした。その銀行家ではジュエルティで業績を上げているので、彼なら弱体化したクラブアルミニウム社を破産から救い、働いている250人の人々の職を救ってくれるだろうと判断したからです。1930年という年は大恐慌のいやな日々が続いており何百万という人が職を失い、会社は倒産に瀕していました。この話はカーカー社長が賛成してくれましたのでハーバードは自分の選んだ数名のスタッフと共にその会社に乗り込みました。会社の内容を調べてみると借入金が資産以上の40万ドル。債権者会議に報告書を出したら、もう会社を閉鎖したらどうか。というものでした。カーカー社長さえ会社に戻って来いと言われました。そんな時、ハーバードの心の中に何か不思議なことが起こり始めました。ジュエルティに戻って33,000ドルという素晴らしい年俸を得ると、クラブアルミニウム会社に無報酬で留まるのを見比べてみてこんな考えが浮かんだのです。「ひょっとしたら神が本当にお望みなのは自分がここにどまって働くことではないのか」この会社こそ神が自分に選んで下さったのではないかと考え抜く毎日でした。ハーバードは自分は神に導かれている。と確信を益々強め、迷うことなく我が道を定めたのです。彼はジュエルティ会社に辞表を出し彼名義のジュエルティ社の株を担保に6,100ドルを借金し会社の組織を再編。彼は年俸6,000ドルのクラブアルミニウム社に戻りました。そこでまず第一にどんな商売にしても欠くことの出来ないことですが、高い倫理・道徳に基づいた会社の経営方針を固めることでした。働く人の考えが正しければ行いも正しくなる。必要なのは簡単ですが覚えられるような行動方針、会社の者が暗記もでき取引の時応用できる倫理基準など。ハーバードは机によりかかりかなりの時間をかけて神に祈りました。4つの短い質問を作り上げました。それが四つのテストだったのです。ハーバードは第一のテスト「真実かどうか」仕事の全てにおいて当てはめてみました。手始めに机上の広告にこのように書いてありました「当社は世界で一番の生産量をほこる台所用品メーカーである」ハーバードはこれを見て自分はこの広告の内容の保証は出来ない。と責任者を呼び誇大広告まかりならんと言いつつ「一番の」とか「最大の」とか「他のブランドより優れた」は止め、真実のみを書くよう申し渡しました。2カ月間これを仕事に当てはめ、後の4人の部課長を呼んで彼等と話し合いました。四つのテストには君たちが信じる宗教信仰に反するところがあるか。彼等の宗教はローマンカトリック。クリスチャンサイエ

ンス。ユダヤ教。長老派と分かれていましたが全員「いいえ」でした。会社のセールスマンでトップの売り上げの人が社長に「四つのテストをこのまま続ければ売上に多大の損害を与えるでしょう」と。押し売りすれば3番目に反すると。以後ハーバード社長はセールスマンの相談役となり四つのテストが浸透していくに従い売り上げも上がってきましたがお客様との好意友情が深まってきました。四つのテストという神が答えて下さった贈り物と善良な社員と良質な製品といった色々な幸運が重なり、五年間で40万ドルの借金を返済することが出来ました。次の15年間で会社は100万ドル以上の配当金を支払い、会社の純資産は750万ドルに達しました。四つのテストが大変プラスになったのは人間関係だと言っていました。四つのテストの著作権は無償で RI へ渡しました。

時間を頂いて私ごとを申し上げます。88才になる私の第一の恩人はロータリーに籍を置かせて頂いたことです。私の商売は小売業でした。お配りした商業界ゼミナールのパンフの商業の勉強はロータリーに入会して職業奉仕の勉強をするうちに商業界ゼミナールは職業奉仕の副読本となりました。「超我の奉仕」で見る決議23-24の奉仕とは を考えますと商業界は「店はお客様のためにある」「損得より善悪が先」など教えており具体的にも技術的にロータリーでどのようにすれば良いかを教えます。佐伯ロータリークラブに入会させて頂いて昭和39年から副読本として勉強してまいりました。佐伯 RC で厳しかったのは職業奉仕にやかましい熊本南 RC では山内醤油の右田さんや小田パストガバナーのような方が居られ私の店で買い物をして店員の態度などよく注意をうけました。ご注意を頂くうちに考え付いたことは「奉仕」とはお客様に喜んでいただくことをやり続けること。と自分なりに解釈し、以後これを徹底させることが私の仕事になりました。新しい店が出来てパートの奥さんが増える。熊本に移っての幹部会議は店長、バイヤー、フロア長、女子主任など1週間に一度の会議でした。特に女性主任は新しく入ったパートの奥さんの教育係りのようなものでした。「お客様に喜んでいただくことが私の仕事」「お客様に喜んでいただけたことが私の生き甲斐」と言ってくれるようになりました。奉仕奉仕、と言い続けた結果でした。それなのになぜ潰れたのか。です。最大の原因は私が社長を辞めたことです。辞めなければと今も残念です。3代目の社長が創業者の考えは古臭い。でロータリーで培った社員はどうして良いか迷う。動かなくなる。奉仕をしてはいかんと勝手に判断。お客様は減る、売上は落ちる。いろいろ悪い手を使う。10年間じっくり倒産へのプロセスを見せてもらいました。私は思います。RC の例会は昼食に来るだけでは貴重な時間を使ってもったいない。ロータリーは勉強の場です。奉仕、特に職業奉仕に如何に活用するかです。21世紀に入り、時代が変わってきました。ロータリーでの勉強、奉仕は21世紀生き残りのキーワードです。ものごとが失敗していく過程を勉強させていただいた者としてロータリーの教えが如何に貴重なものかお伝えしたかったからです。ロータリーは勉強の場です。

1月のロータリー理解推進月間の卓話を終わらせて頂きます。ありがとうございました。